

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲作情報（第8号）」について（送付）
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

稲・大豆作情報（第8号）

1. 情報田生育調査結果について

(1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	ヒノヒカリ (鳥栖市)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/10)	6月23日 (平年：6/20)	6月19日 (平年：6/21)	6月20日 (平年：6/21)
栽植密度(株/㎡)	15.7 (52.5株/坪)	18.5 (61.6株/坪)	18.8 (62.6株/坪)	16.8 (55.9株/坪)

(2) 調査結果（8月17日現在）

品種名	夢しずく	ヒノヒカリ	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	出穂期 8/10	92.5	86.9	86.6
平年値(平年比)		89.0(104)	87.0(99)	78.5(110)
茎数(本/㎡)		357	404	538
平年値(平年比)		443(81)	455(89)	524(103)
葉齢(L)		14.0	14.4	14.3
平年値(平年比)		14.1(-0.1)	14.9(-0.5)	14.5(-0.2)
葉色(SPAD値)		31.2	31.4	37.1
平年値(平年比)	34.0(92)	38.0(83)	36.6(101)	

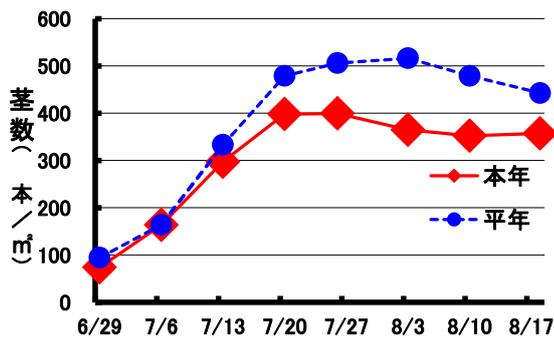


図1 ヒノヒカリ茎数の推移

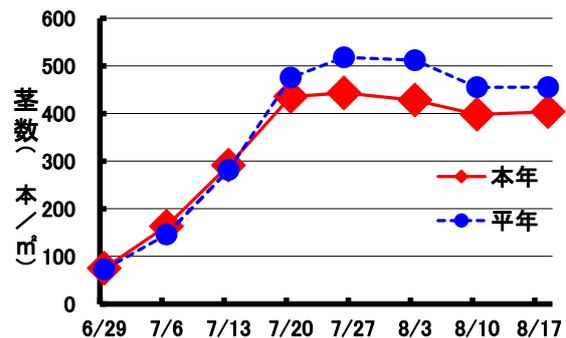


図2 さがびより茎数の推移

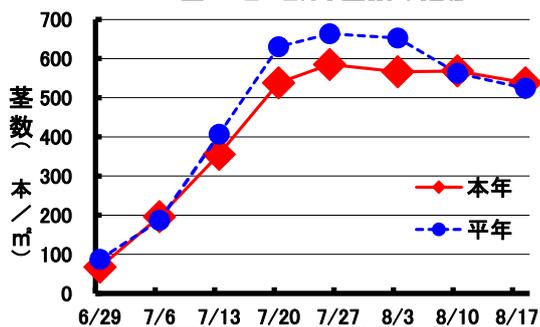


図3 ヒヨクモチ茎数の推移

農試データは佐賀県農業試験研究センターのホームページで技術資料〈米づくり情報〉を確認してください。

佐賀県農業試験研究センター 技術資料 🔍

2. 気象及び普通期水稻の生育概況について（8月17日現在）

（1）気象（8月10日～8月15日までの期間）

- 【平均気温】 平年より0.8℃高い。
- 【日照時間】 日年比77.9%と短い。
- 【降水量】 平年比213%と多い。

（2）生育概況

6/10 移植の「夢しずく」は乳熟期を迎えている。
草丈は「さがびより」でほぼ平年並み、その他の品種で高くなっている。
茎数は「ヒノヒカリ」、「さがびより」で少なく、「ヒヨクモチ」でやや多くなっている。
葉色は「ヒヨクモチ」でほぼ平年並み、その他の品種で淡くなっている。
主幹葉齢の展開は、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」でほぼ平年並み、「さがびより」でやや遅くなっている。

3. 普通期水稻の今後の管理について（8月18日～）

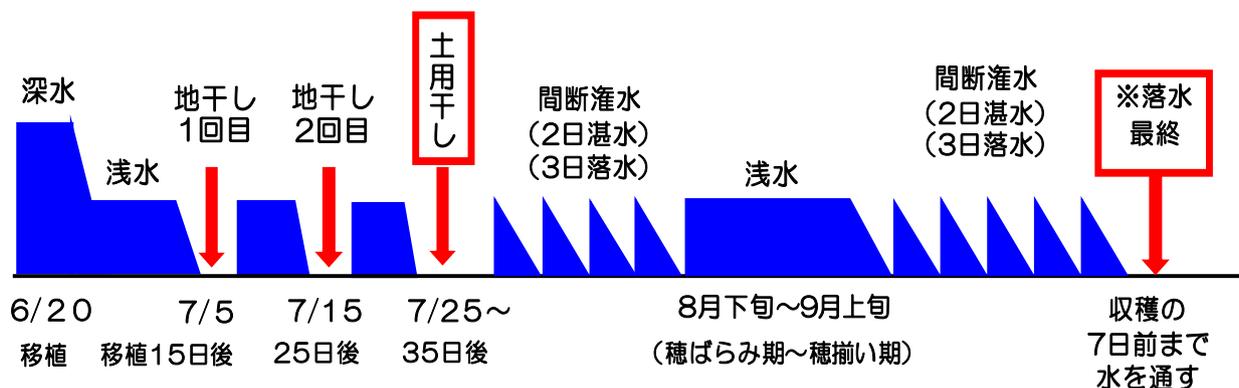
（1）水管理

①「夢しずく」の水管理

- ・現在、生育ステージは穂揃期～乳熟期ごろです。（6/11 移植は 8/10 出穂期）
- ・出穂期以降は出穂後5日まで湛水管理とし、その後、根の活力維持及び地固めを行うため、間断湛水に移行して下さい。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」の水管理

- ・「ヒノヒカリ」は穂ばらみ期を迎えている。
- ・「さがびより」・「天使の詩」では幼穂形成期～穂ばらみ期を迎えている（幼穂長 20～30 mm程度）。
- ・「ヒヨクモチ」は、幼穂形成期を迎えている。
- ・幼穂形成期以降は、水を必要とする時期なので、穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。



※大雨による浸湛水被害を受けた圃場の管理について

- ・8月16日からの断続的な豪雨により、圃場の浸冠水が懸念されます。
- ・浸湛水の被害を受けた圃場では、天候が回復次第、根の活力維持を図るために、一旦排水をして新しい水と交換し、その後は、間断湛水を行ってください。（土砂の流入などがあった場合は数回水を入れ替えるようにしましょう。）

(2) 穂肥

①「さがびより」の穂肥

- ・「さがびより」は、6月18～20日頃に移植された圃場で、8/10～12日頃が穂肥（幼穂5mm）の施用時期であり、8月17日現在、幼穂が20～30mmとなっています。
- ・11日からの降雨で穂肥の施用が遅れた圃場は、良食味米生産のため下記の穂肥診断基準に基づき、穂肥の施用を検討してください。

「さがびより」の穂肥判断基準

◎穂肥時期の目安

表1. 出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	22～20	19～18	18～16	16～15
主稈の幼穂長 (mm)	1～2	3～5	5～15	15～80

★「さがびより」の穂肥施用のポイント

- ①早くても幼穂5mmを確認してから施用する。
- ②出穂前18日（幼穂の長さ10mm）に施用。
- ②草丈が75cm以上で葉色が濃い（SPAD値37以上）場合は施用しない。
- ③草丈が75cm以下で、葉色が薄い（SPAD値33以下）場合は、2日程度早め（出穂前22～20日）に施用。

表2. さがびよりの穂肥診断基準

幼穂1mmの時の草丈	葉色	葉色版群落葉色	SPAD	幼穂長 (mm)	BB602 施用量 (kg/10a)
75cm以下	薄い	2.5以下	33以下	5	15kg
	標準	3.0	33～37	10	12.5kg
	やや濃い	3.5	37～38	15	7.5kg
	濃い	3.8以上	39以上	施用しない	
75～80cm	薄い	3.0以下	36以下	10～15	10kg
	標準～濃い	3.0以上	37以上	施用しない	
80cm以上	施用しない				

※葉色が濃い圃場や幼穂長が15mm以上になっている圃場は、穂肥は施用しない。

「ヒヨクモチ」の穂肥施用の目安

- ・「ヒヨクモチ」では、8月24～26日頃が2回目の穂肥時期になると予測されます。下記の穂肥施用基準を参考に施用してください。
- ・なお、元肥一発肥料を施用した圃場でも、葉色が8月下旬にSPADで38を切った場合は、BB602で、10kg/10aを施用すれば、増収効果がある。

表3. ヒヨクモチの穂肥時期と穂肥量

肥料	穂肥Ⅰ施用量 (kg/10a)	施用時期の目安	穂肥Ⅱ施用量 (kg/10a)	施用時期の目安	実肥施用量 (kg/10a)
LPBB804	40 (平坦:JA さが東部地区)	8月15 ～ 16日頃	なし	—	なし
	35 (山麓:JA さが東部地区)				
	30 (JA 神埼地区)				
BB602	25 (平坦:JA さが東部)	16日頃	10 (JA さが東部)	8月24 ～ 26日	10 (JA さが東部)
	25 (JA 神埼地区)		(JA 神埼地区)	(穂肥Ⅰの10日後)	

注1) 大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか、上記施用量の5割未満に減肥して施用する。

注2) 実肥を施用する場合は、穂揃期（平年：9月8日～10日頃）に施用する。

(3) 病害虫防除について

① 海外飛来性害虫

- 8月18日現在、ウンカ類（げんこ、ヒゲウンカ）は、6月25日頃、7月8日頃、7月19日頃に飛来が確認され、嬉野市のライトトラップでの総捕獲数（6/1～7/20）は、過去10年の中で2番目に多くなっている。
- 多くの圃場で、ウンカ類が確認（セジロウンカ主体ではあるが、一部トビイロウンカも確認）されている。
- 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

防除適期①
8/7～8/16頃

防除適期②（状況に応じ）
9/1～9/3頃

佐賀県 農業技術防除センター 🔍
※防除適期は「幼虫ふ化揃い期」です。

幼虫孵化揃い期が防除適期です。ウンカ防除にあたっては、防除効果を高めるためにできる限り、水をしっかりとめましょう。

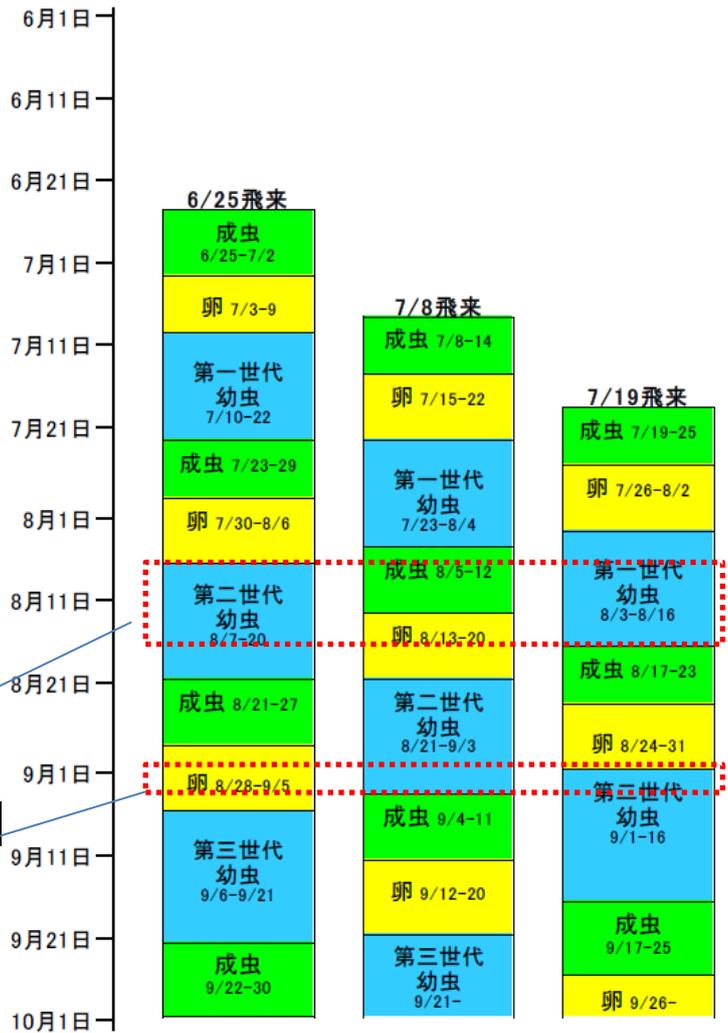


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2022年7月20日作成)

② 斑点米カメムシ類について

- 向こう1か月の気象予報（福岡管区气象台：8/13～9/12）によると、九州北部地方では、今後も平均気温は高くなると予想されているため、カメムシ類の発生量は、平年よりやや多いと予測される。
- 出穂後に畦畔除草をおこなうと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長しますので、出穂10日前までに草刈りを済ませる。

表4. 各品種別の草刈り時期の目安

品種名	出穂期（平年）	出穂10日前
夢しずく	8/12	～8/2頃まで
ヒノヒカリ	8/27	～8/17頃まで
さがびより	9/1	～8/22頃まで
ヒヨクモチ	9/5	～8/27頃まで

※出穂期（平年）は、三神管内における情報田のデータの平均値

③ いもち病

- 8月11日以降、降雨が続いており、今後の気象予報によると、曇りや雨の日が多く、いもち病の発生好適条件となる可能性があるため注意が必要です。
- 管内でも、葉いもちの病斑（停止型）を確認しているため、本田で新たな病斑の発生が認められたら防除を検討する。
- 特に、上位葉に進展型病斑が見られる場合、早急に防除を実施する。



紋枯病の病斑 (8/16 撮影: ヒノヒカリ)

④ 紋枯れ病

- 多くの圃場で紋枯れ病の発生を確認している。
- 高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生する恐れが高まるので注意する。
- 病斑が確認される場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を行う。（液剤・粉剤の場合は、出穂の10～20日間を目安）

※8/11以降、多湿条件が続いていることからいもち病や紋枯れ病などの発生が多くなる恐れがあります。
ウンカ類の防除と併せて、病気の防除を計画しましょう。



紋枯病の病斑 (8/17 撮影: 夢しずく)

4. 大豆の今後の管理について

1) 大豆の生育状況

播種期が6月下旬～7月下旬にかけて幅広い
ため、播種期により圃場間で生育格差が見られ
る。大豆の生育ステージは、6月下旬頃播種が開花期、7月上旬頃播種が本葉11～13葉程度、7月中旬頃播種が本葉9～11葉程度となっている。

2) 今後の管理

○中耕・培土の実施

- 7月下旬播種 : 2回目の培土時期頃です。土壌が乾燥次第、初生葉が隠れる程度まで2回目の培土を行ってください。

※6月下旬頃播種ですでに開花期を迎えている圃場や、7月上旬播種で間もなく開花期を迎える圃場では土入れは控えてください。（断根により根を痛めるため）

3) 除草剤について

○生育期処理

- 雑草の発生が多い圃場では、中耕培土を実施し雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤（イネ科：ポルトフロアブル、広葉：アタックショット乳剤等）を散布してください。
- アサガオ類・ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内への侵入防止に努めるとともに、すでに圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット散布や手取りによる防除を行ってください。

4) 病害虫防除（ハスモンヨトウ、カメムシ類）

- 夏季が高温少雨で経過した年は、発生が多く増殖に伴う被害拡大が懸念されますので、フェロモントラップの捕殺数や圃場毎に白変葉の増加に注意しましょう。
- 農業技術防除センターの病害虫発生予察情報（8/10:第5号）によると、本年はハスモンヨトウの発生が、平年より「やや多」、カメムシ類の発生が「多」と予測されています。



加害が懸念されるカメムシ（8/12撮影：鳥栖）

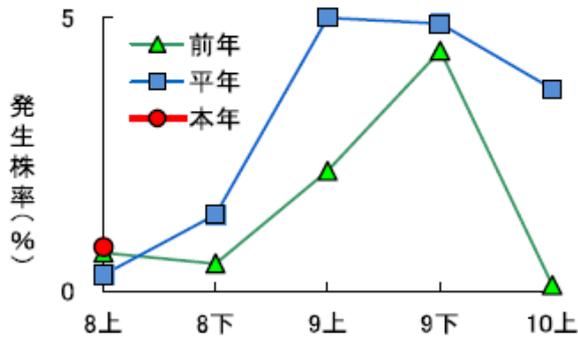


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

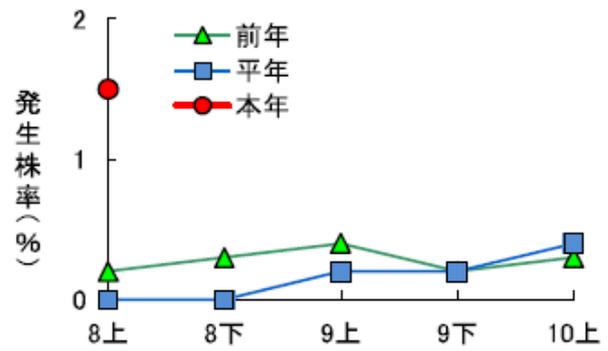


図1 大豆でのカメムシ類の発生推移

図.ハスモンヨトウ、カメムシの発生推移（農業技術防除センター病害虫発生予察情報第5号掲載資料）

- 播種期が早い圃場では、例年8月中旬頃からハスモンヨトウの幼虫が散見され始めます。
- ハスモンヨトウの防除適期は、若令幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中令幼虫以上（体長約2cm以上）になると、防除効果が低下します。
- 防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている時は、再防除が必要です。
- カメムシ類の防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期ですので、圃場での発生状況を確認し、遅れないように防除を実施しましょう。

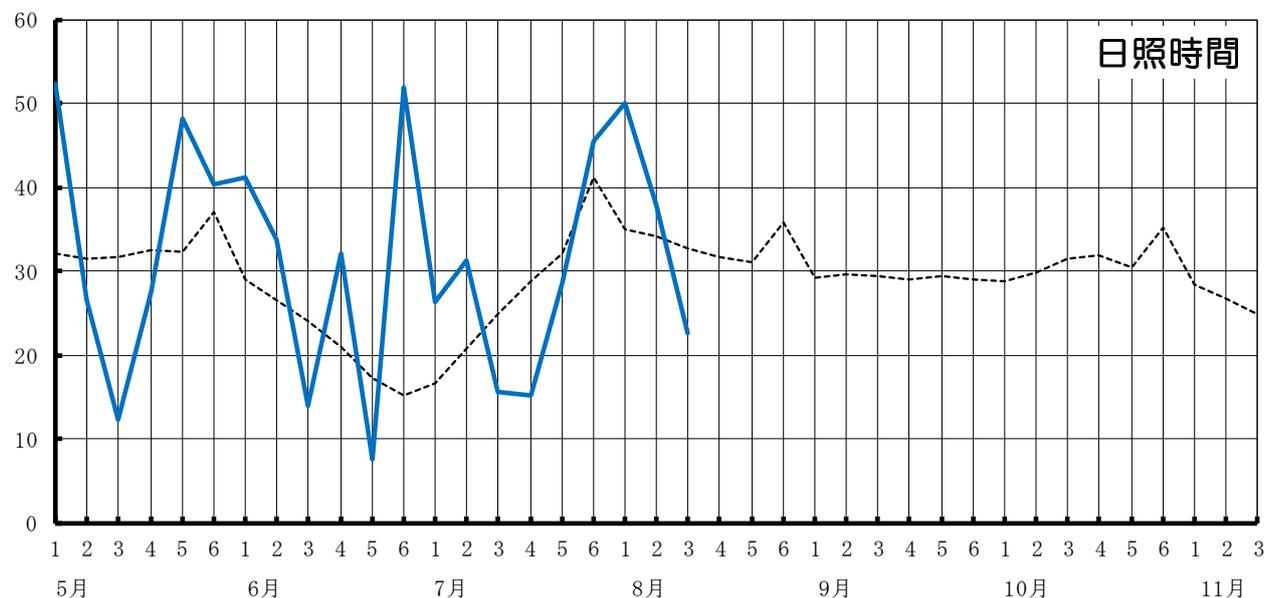
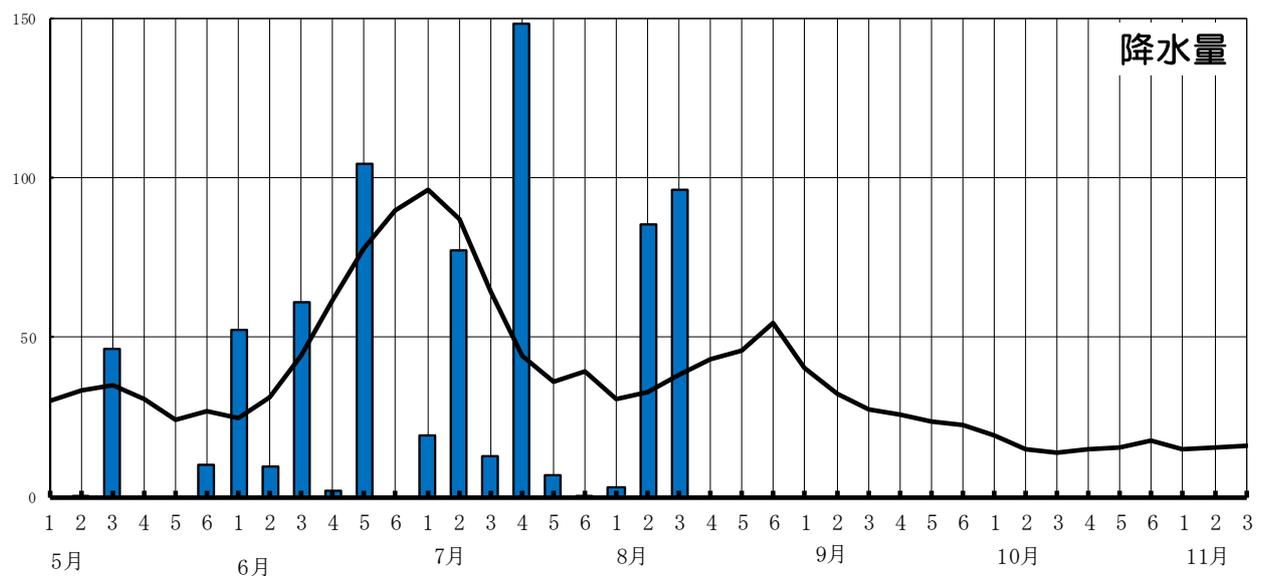
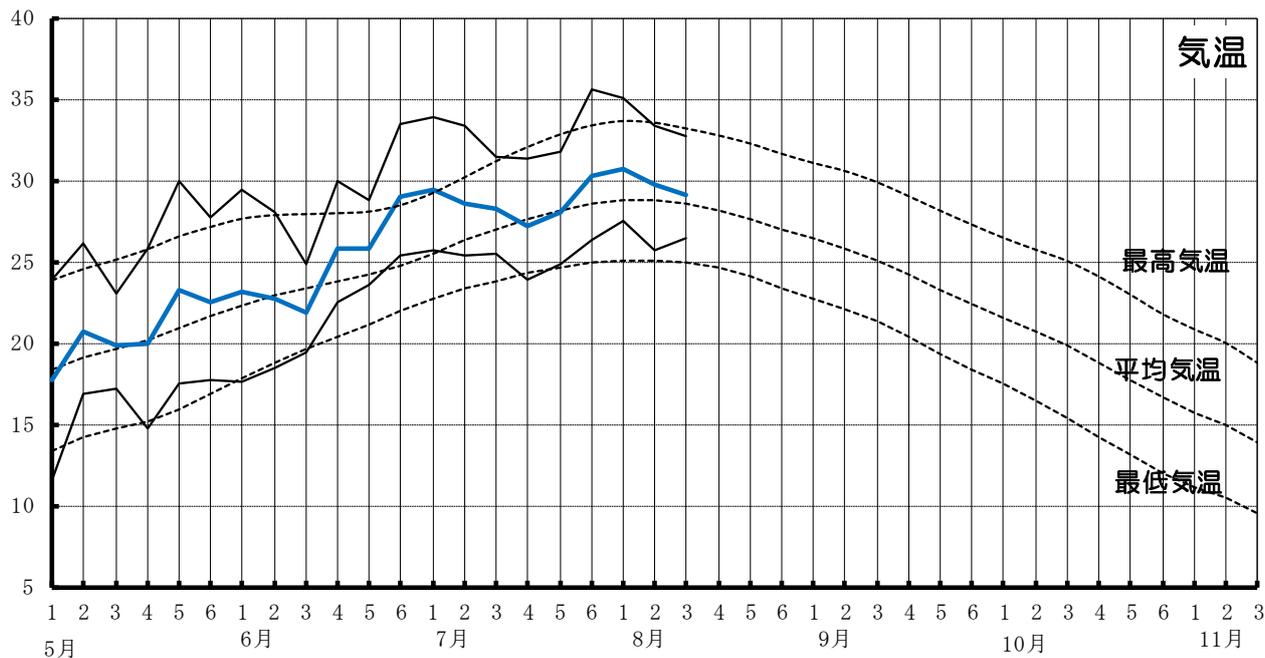


ハスモンヨトウ (①若令幼虫の集団, ②白変葉<若令幼虫の集団による食害>, ③中-老令幼虫)
(平成22年撮影)

圃場毎に発生状況を確認し、適期防除を実施してください

令和4年産水稲生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

三神農業振興センター



令和4年産 収穫期予想積算表(アメダス観測地, 佐賀)

三神地域農業指導者連絡会作物部会
令和4年8月17日 現在

(積算気温による収穫適期の目安)

月	日	平均気温		夢しずく 900~1150℃				ヒノヒカリ 900~1050℃				出穂期	
		平年	本年	8/10	8/12	8/14	8/16	8/22 (仮定)	8/24 (仮定)	8/26 (仮定)	8/28 (仮定)		
8	10	28.7	30.3	出穂期									
	11	28.6	30.3	30									
	12	28.6	27.9	58	出穂期								
	13	28.5	27.9	86	28								
	14	28.5	30.1	116	58	出穂期							
	15	28.4	29.4	146	87	29							
	16	28.3	27.5	173	115	57	出穂期						
	17	28.2		201	143	85	28						
	18	28.1		229	171	113	56						
	19	28.1		258	199	141	84						
	20	28.0		286	227	169	112						
	21	27.9		313	255	197	140						
	22	27.8		341	283	225	168	出穂期					
	23	27.6		369	311	253	196	28					
	24	27.5		396	338	280	223	55	出穂期				
	25	27.4		424	366	308	251	83	27				
	26	27.3		451	393	335	278	110	55	出穂期			
	27	27.2		478	420	362	305	137	82	27			
	28	27.1		505	447	389	332	164	109	54	出穂期		
	29	26.9		532	474	416	359	191	136	81	27		
	30	26.8		559	501	443	386	218	163	108	54		
	31	26.7		586	528	470	413	245	189	135	80		
	9	1	26.6		612	554	496	439	271	216	161	107	
		2	26.5		639	581	523	466	298	243	188	134	
		3	26.4		665	607	549	492	324	269	214	160	
		4	26.3		692	633	575	518	350	295	241	186	
		5	26.2		718	660	602	545	377	321	267	212	
		6	26.0		744	686	628	571	403	347	293	238	
		7	25.9		770	711	653	597	428	373	319	264	
		8	25.8		795	737	679	622	454	399	344	290	
		9	25.7		821	763	705	648	480	425	370	316	
10		25.5		847	788	730	674	505	450	396	341		
11		25.4		872	814	756	699	531	476	421	367		
12		25.3		897	839	781	724	556	501	446	392		
13		25.1		922	864	806	749	581	526	471	417		
14		24.9		947	889	831	774	606	551	496	442		
15		24.8		972	914	856	799	631	576	521	467		
16		24.6		997	939	881	824	656	600	546	491		
17		24.4		1021	963	905	848	680	625	570	516		
18		24.2		1045	987	929	872	704	649	594	540		
19		24.0		1069	1011	953	896	728	673	618	564		
20		23.8		1093	1035	977	920	752	697	642	588		
21		23.6		1117	1059	1001	944	776	720	666	611		
22		23.4		1140	1082	1024	967	799	744	689	635		
23		23.3		1163	1105	1047	990	822	767	712	658		
24		23.1		1187	1128	1070	1013	845	790	736	681		
25		22.9		1209	1151	1093	1036	868	813	758	704		
26		22.7		1232	1174	1116	1059	891	836	781	727		
27		22.6		1255	1197	1139	1082	914	858	804	749		
28		22.4		1277	1219	1161	1104	936	881	826	772		
29		22.2		1299	1241	1183	1126	958	903	848	794		
30		22.1		1321	1263	1205	1148	980	925	870	816		
10		1	21.9		1343	1285	1227	1170	1002	947	892	838	
	2	21.7		1365	1307	1249	1192	1024	969	914	860		
	3	21.6		1387	1328	1270	1214	1045	990	936	881		
	4	21.4		1408	1350	1292	1235	1067	1012	957	903		
	5	21.2		1429	1371	1313	1256	1088	1033	978	924		
	6	21.1		1450	1392	1334	1277	1109	1054	999	945		
	7	20.9		1471	1413	1355	1298	1130	1075	1020	966		
	8	20.7		1492	1434	1376	1319	1151	1096	1041	987		
	9	20.6		1513	1454	1396	1339	1171	1116	1062	1007		
	10	20.4		1533	1475	1417	1360	1192	1137	1082	1028		
	11	20.2		1553	1495	1437	1380	1212	1157	1102	1048		
	12	20.0		1573	1515	1457	1400	1232	1177	1122	1068		
	13	19.8		1593	1535	1477	1420	1252	1197	1142	1088		
	14	19.6		1613	1554	1496	1439	1271	1216	1162	1107		
	15	19.4		1632	1574	1516	1459	1291	1236	1181	1127		

<収穫のポイント>

- ・積算表はあくまで目安です。気温が高く推移すれば予想より早まり、気温が低く推移すれば予想より遅くなります。圃場での熟れ具合を確認したうえで、収穫日を決定してください。
- ・早期落水は充実不足による「ヤセ米」や「屑米」・「死米」が発生しやすく、品質低下の原因となりますので、必ず間断灌水を実施して根の活力維持に努めてください。
- ・コンバイン収穫では、麦などの異種穀粒や異物が混入しないように清掃点検を行いましょう。
- ・籾水分が高い時は、収穫後できるだけ速やかに通風・乾燥を行いましょう。
- ・一時堆積中の時間が長いと、籾の温度が高くなりヤケ米が発生しやすくなります。穀温が高くなり、熱く感じられるときはヤケ米が発生してしまいます。

<収穫適期の目安>

◎ 籾水分29%以下

- ・穂軸の先端(穂先)から1~2cmが枯れ、穂元の青籾が5~7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時です。
- ・収穫は、穀粒水分30%以下に低下してから始まります。籾水分27~28%の頃が刈り取りの中心となり、籾水分25%未満(積算気温で1,150度以上)になると、刈遅れによる品質低下が目立ってきます。
- ・早刈りは、玄米の充実不足による「青未熟粒」や「死米」が発生しやすくなります。「青未熟粒」が多いと食味が劣り、また収量も低下しますので、早刈りは避けましょう。
- ・遅刈りは、「胴割米」や「茶米」、「穂発芽粒」が発生しやすくなり、品質低下の原因となりますので刈遅れとならないように注意してください。

